



日比谷野音 2300人が 声を上げる

大軍拡ではなく社会保障拡充

いのちと人権まもる

政治を国に求める

10月19日、日比谷野外音楽堂にて、「医療・介護・福祉に国の予算を増やせ!10・19いのちまもる総行動」が開催され、YouTube視聴も含めて約3000人が参加しました。



ドを掲げたり、ハロウィンのグッツや恐竜の被り物を用意するなど、集会を明るく盛り上げていました。

今こそいのちと人権まもれの声を

集会では、開会にあたり日本医労連の佐々木悦子中央執行委員長があいさつを行い、「岸田首相は医療・介護の規制緩和を指示し、さらに保険証のマイナカードへの一本化を強行しました。いまこそのちと人権まもる政治が求められています。医療・介護・福祉の賃上げ・増員にむけた診療報酬・介護報酬の大幅引き上げ、地域医療をまもれ、など声をあげましょう」と呼びかけました。

4年ぶり
全国から集結

「医療・介護・福祉に国の予算を増やせ!10・19いのちまもる総行動」が、10月19日に日比谷野外音楽堂で開催されました。この総行動は、日本医労連や全日本民医連、保

団連、中央社保協などの団体が実行委員会形式で取り組み、当日は日比谷野音に全国



あいさつする佐々木中央執行委員長



司会左) 亀山由佳さん(東京医労連・看護師)
司会右) 月又智弘さん(全日赤・書記長)

参加者が楽しみにしていたトークショーでは「ザ・ニュースペーパー番外編」の皆さまが登壇しました。トークショーは、与野党政

爆笑のトークショー



ザ・ニュースペーパー番外編(写真上)のトークショーで会場は大盛り上がり



脈路
せつかくの執筆の機会をいただいたので、自分の故郷のことを知ってもらいたいと思います。
私の故郷は、長野県千曲市、近くには戸倉上山田温泉があり、大衆浴場の残る風情ある(寂れた?)温泉街です。今回は温泉の話ではなく、棚田で有名な姨捨を紹介したいと思います▼姨捨は私の家から車で7分くらいところにあり、幻想的な景色が訪れた人々を魅了する姨捨の棚田は、古今和歌集に姨捨の景観と月の歌が残っているほどです。特に、棚田に映る「田毎の月」は国の名勝に指定され、季節や時間で姿を変える風景は日本の原風景を想わせてくれます▼特に姨捨のおすすめの時間帯は日が暮れてから、善光寺平に広がる千曲川と建物、車のヘッドライトが美しくキラキラと輝いている夜景で日本夜景100選にも選ばれています。姨捨駅(標高551m)や姨捨サービスエリア(標高592m)から観ることができ、私も若かりし頃の様子思い出がよみがえる好きな場所です▼更科・姨捨の地は年老いた親を山に棄てて行く「親不孝の里」としてのイメージを多くの人に持たれていましたが、ここ「さらしな」が舞台とされる姨捨伝説には「親の大切さ」「親が子を思う無償の愛情」がメッセージとして込められています。さらしな(親孝行の里)を訪れ親子の絆や家族のありがたさを考えてみてはいかがでしょうか。

切実な訴え続く リレートーク



東京・日比谷野音で開かれた「10・19いのちまもる総行動」では、各分野の代表が現場の実態と要求を訴えました。

配置基準56年前と同じ



柳澤さん

福祉保育労群馬支部つくしんぼ分会の柳澤万理子さんが保育現場から、「保育士賃金は全産業平均より7万円も低く、保育士の配置基準も56年前から変わっていません。低

い賃金と配置基準が保育士不足の原因です」と報告しました。

人員増に介護報酬引き上げを



門脇さん

社会福祉法人千葉勤労者福祉会の門脇めぐみさんは介護現場について、「介護崩壊は始まっています。全産業平均より7万円も賃金が低くては介護職が増えるわけがありません。賃上げや人員基準・報酬引き上げが必要です」と訴えました。会場からも「そ

うだ」の応えがありました。世論に訴え政治を変えたい



早川さん

京都民医労副執行委員長の早川智里さんは、訪問診療時の経験として、患者さんの救急搬送先が1時間半見つからなかった経験を語りました。そして看護現場について、「患者さんに向き合うほど苦しくて1人ではどうしようもない現実があります。医療・介護に利益を求め、いのちに格差を持ち込む政治の仕組み

いのちまもる

10・19集会スナップ



が、私たちが苦しめています。現場実態を可視化して世論に訴え、政治を変えたいです」と訴えました。

健康保険証残せ



山崎さん

最後に、医師・歯科医師の立場から保団連理事の山崎利彦さんが「コロナ禍を乗り越えた医師の1割が診療所をし



めようとしています。マイナンバーカードのために殺されようとしています。データ的な制度を認めてはいけません。安全安心の医療を一緒につくりましょう」と呼びかけました。すべての訴えに会場から大きな拍手が送られました。

集会終了後は銀座の街中を、「保険証なくすな」「診療報酬・介護報酬の大幅引き上げを」ののぼりや、手作りのプラカードを掲げて、要求を訴えながらパレードしました。

集会后は銀座の街中を、「保険証なくすな」「診療報酬・介護報酬の大幅引き上げを」ののぼりや、手作りのプラカードを掲げて、要求を訴えながらパレードしました。

懇談 要請

医師会・厚労省

「10・19いのちまもる総行動」実行委員会は、10月18日に日本医師会と懇談し、翌19日には、厚生労働省に懇談・要請を行いました。

医師会と懇談

10月18日は、茂松茂人日本医師会副会長と懇談しました。懇談では、物価高騰やコロナ禍の影響が続く中で、医療機関経営を守り、患者・国民が安心して医療を受けられるように、24年改定での診療報酬の大幅引き上げをはじめ、社会保障予算をしっかりと確保することの重要性が共有されました。

増田剛全日本民医連会長は、逼迫した医療機関経営や医師不足の現状を訴えました。「コロナが5類になり補助金がカットされた。すでに潰れる病院も出てきている。医師不足も深刻だ。このまま『働き方改革』に突入

すれば、当直が回らない」と話しました。茂松委員長は、「医療現場では人員不足や低賃金などが原因で看護師が大量に退職している。現場の実態に見合っていない人員配置を見直すことが喫緊の課題だ」と訴えました。茂松さんは「必要なところに人員が行き届いていない。潜在看護師の問題もある。新たに看護師になる人たちが減っている」と問題意識を共有しました。

厚労省懇談・要請 19日の集会後は、厚労省に要請書と集会アピールを届けました。三浦靖厚生労働政務官は要請に対し、「診療報酬、介護報酬についてはまさに今議論の真っ最中である。本日、聞かせていただいた医療、介護、福祉の最前線にいる皆さんの声を受け止め、内容についてよく検討していきたい」と述べました。



平和・社保守れ！ 秋闘に向け意思統一

23秋民医連・生協労組全国交流集会



10月22日～23日に、23秋民医連・生協労組全国交流集会が沖縄県で開催され、32都道府県41単組から1000人が参加し、秋闘に向け意思統一を行いました。

集会の記念講演は、沖縄国際大学准教授の秋山道宏氏が、「戦後沖縄の『暮らし』と『いのち』」をテーマに講演。秋山氏は、「沖縄を考

音、生活水の汚染（PFAS問題）など、「暮らし」や「いのち」が脅かされている現状があることを紹介しました。

集会の記念講演は、沖縄国際大学准教授の秋山道宏氏が、「戦後沖縄の『暮らし』と『いのち』」をテーマに講演。秋山氏は、「沖縄を考

よって保持しなければならぬ」とする憲法12条を強調し、「暮らし」や「いのち」を守る医療労働者が軍事化や戦争に反対し、行動することが大切としました。

次に、細見学部長が基調報告を行い、秋闘の重点課題として①産別結集、②ストライキの構えを作る、③増員署名を推進することを強調しました。

2日目は、①憲法・平和・社会保障を守る活動交流、②経営資料の見方、③組織強化拡大の3分科会に分かれ、活動の交流を深めました。分科会後の全体会では、それぞれの分科会について参加者が報告。その後、岩本千鶴副部長が閉会あいさつし、団結

ガンバロウで散会しました。 オフショナルツアー

集会前日には、15都道府県16単組29人の参加者が、平和学習のオフショナルツアーとして、不届館（瀬長亀次郎と民衆資料）と対馬丸記念館を訪問しました。

不届館では、アメリカの統治下にあった沖縄で、瀬長亀次郎さんが祖国復帰と平和な社会の実現を目指して命がけで闘ったこと、様々な弾圧に

語り部の照屋恒さんから話をうかがいました。当時4歳だった照屋さんと母と姉を乗せた「対馬丸」は、疎開先である長崎に向かう途中アメリカの潜水艦からの魚雷攻撃を受け沈没。集団疎開する児童や一般疎開者約1700人が被害を受け、生存できた児童はわずか59人

母と姉を失いました。事件について、公言してはならないと戒厳令が敷かれ、解除された小学2年生まで、本当の事を話せず生きていかなければなりません。対馬丸さんは「今の戦争の事を知らない子供たちに戦争はいかにみじめな事かこれからも語り部として話していきたい」と話されました。

秋闘に向け学習・交流

2023年度自治体・公立病院 労組全国交流集会

自治体部会は、10月22日～23日に岡山県岡山市で2023年度自治体・公立病院労組全国交流集会を開催。9県から28人が参加しました。

記念講演は、岡山県労働者学習協会の長久啓太さんに「自分ごとを自分の手に」労働組合のパワーを大きくしよう」をテーマに講演いただきました。また、特別報告として、朝日訴訟の会の川谷宗夫さんに「朝日訴訟の地・岡山から現代の社会保障を考える」と題し、報告いただきました。指定報告では、広島市

憲法平和 まなば Night！

オンラインセミナー

日本医労連憲法・平和対策委員会は、第3回憲法平和オンラインセミナーを10月26日に開催。東京法律事務所の内志織（さんないしおり）弁護士を講師に、「安保三文書と私たちの暮らし」をテーマに行いました。

冒頭、憲法9条が果たしてきた役割について、①痛苦の経験の上に、国連憲章よりも踏み込んだ、戦力不保持・交戦権否認の9条となったこと、②この条項が、自衛隊ができて、集団的自衛権行使を禁止し、攻撃的兵器をもたない、という歯止めになってきたこと、③安保法制（2015年成立）でも、集団的自衛権の行使が部分的なものとなるブレイキとなった、と述べられました。そして今回、「安保三文書」の改定で起る問題として、①「敵基地攻

憲法第12条「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない」

権力は、しっかり見張っていないと暴走しかねない危険性をもっている。私たちの一人ひとりの「不断（普段の）努力」が大事！



山内弁護士

最後に「権力は、見張っていないと暴走する。一人ひとりがチェックすることが大事」と、学習会に参加したり、友人と憲法の話をするなど、「不断の（普段の）努力」が大事」と呼びかけられました。

と紹介されました。

また、増額分の財源として、国立病院機構の積立金や、中小企業の手算などを使い回すことを「怒りポイント」として強調されました。加えて、防衛費増額分4兆円あれば、大学授業料無償化（1・8兆円）、小中学校の給食無料化（0・4兆円）などができる

組合員の結集がカギ

第25回一般病院（民間病院） 労組全国交流集会

一般病院部会は、10月14日～15日に日本医療労働者館で第25回一般病院（民間病院）労組全国交流集会を開催。オンライン併用で9



にむけた意思統一を行いました。記念講演は、全労連の黒澤幸一事務局長に「いまなぜ労働組合なのか」労働組合の価値、24春闘をテーマに考える」と題した講演をいただき、特別報告では、京都・桂病院労組に2023春闘・秋闘の取り組み報告をいただきました。全体会では、①仲間増やしの取り組み、②組合活動に組合員を結集させる取り組みの2つを討論の柱に交流を深めました。

交流が組織拡大の力に

全国医科系大学労組 2023全国交流集会



大学部会は、10月21日～22日に全国医科系大学系労組2023全国交流集会を慶応義塾大学信濃町キャンパスにて開催。オンライン併用で9組織49人が参加しました。

記念講演は、全国医師ユニオン代表の植山直人さんに「医師労働の実態と働き方改革」その課題と労働組合に期待すること」をテーマに講演いただきました。

分散会では、①コロナ後に何が足りていない？、②定年延長と再雇用の対応、③組織拡大についての3つの柱で意見交換しました。最後に、各分散会の代表者が秋闘に向けて「組合員を増やす！」「前進回答を引き出す！」と決意表明し、散会となりました。

日本医労連
憲法平和オンラインセミナー

まなばNIGHT

「現地視察報告！沖縄・先島諸島の今」
加部歩人 弁護士（東京法律事務所）

2023.11.30
18:30～19:00

ZoomID : 857 6718 1811
パスコード: 844036

▲次回のチラシ

